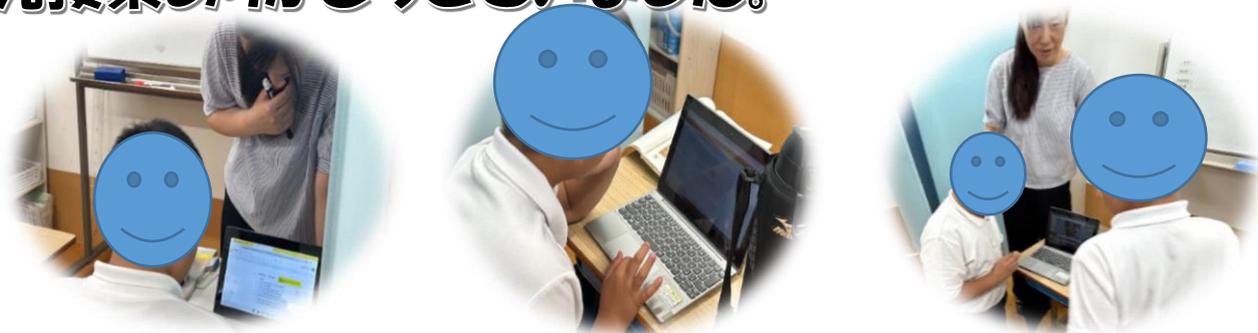


R6年度 教師と児童が共に学び、学び合いを通じた学び方の習得
～指導の個別化・学習の個性化を図る効果的な ICT の活用を通して～



校内研修通信③

研究授業ありがとうございました。



先生の授業による〇〇さんと、〇〇さんの複式授業、そして先生方の参観ありがとうございました。今回は特別支援学級の複式の授業ということで、通常学級の担任にとってもたくさんのことを学ばせていただきました。授業研究会での先生方の気づき、または自分が感じたことをもとにここに書かせていただきます。

今回の授業で感じたことは以下の2点です。

①複線型の授業における教師の役割

②実物とICTの効果的な活用

〈①に関して〉

今日は1年生と6年生の同時進行の学習でした。通常学級に置き換えれば、学習のゴールがある中で子どもたち1人1人のゴールに対する考え方は違います。また、そのゴールに向かうための能力にも差があります。そこで必要になるのは、教師のコーディネート力です。今日の先生の授業では、直接指導と間接指導をうまく分けられていました。教師がいないときに、子どもが自分で学習を進められるようになるためには、学習の流れの見通しと、課題を解決するための見通しが必要です。今回はその見通しを子どもが行うことができていたので、2人の児童が課題に対して一生懸命考えて解決することができたのだと思います。今日の授業は、“異学年の複線型授業”でした。教師の実態把握、手立て、有効な思考ツール（ICT）も大事な教師のコーディネート力だと感じました。しかし、今日授業研究会で先生方と話して学習の厳しい子に対してどこまで手立てを考えるのか、教師が介入するのか、その案配というものは難しいなと感じました。

〈②に関して〉

学習の中で、タコの実物を用いて動作化する場面がありました。その〇〇さんの食いつきがものすごく、そこからたくさんの自分の経験をふまえた言葉が出てきました。あの姿はICTではできないだろうと感じ、全てICTではなくやっぱり目の前にあって、自分で触って動かすということも子どもたちの感性においては重要なことだと感じました。

最後に、、、

先生の授業では複線型授業の教師の役割、ICTの活用など授業におけるたくさんの大事な視点がありました。1学期から積極的にICT活用に取り組んでくださり、その良さを子どもたちの学びにつなげることは私たちは常に意識する必要があると感じました。

